平新報

發行日 月三回 5.15.25.日發行
編集兼發行印刷人 山野邊庄吉
福島縣磐城市大字岩出字向二八
發行所 平新報社
一部定價拾円送料八円
廣告料 一行 五十円

破邪顯正、啓發運動

平から小名濱市役所初議会傍聴と印象記

眞立 山野邊庄吉

八月二十七日（舊七月二十二日）月曜（ひのえとら）天候は雨、濕度は二十三度、日入十八時十五分、日出五時九分、月入十一時二十六分、月出二十一時五十四分一白、一色大提灯、小潮、やぶる、佛滅、心、天おんこれを説明すると、満潮、干潮、潮差、中段、六曜、廿八宿、下段、これは九星のことである。要は日本人は都会の人は別であろうが吾々農民は、暦の新、舊生活をなして居る、これは又地球のある限りのがれぬ生活である。夜あれば晝あり太陽あれば月あり、男あれば女あり、陰陽は天地自然の原理であり眞理である。アインシユタインの説の相對性の原理等と今更説明する迄もなく、生あれば死ある事は人生に於て長命すると否なとで何人も免れぬ事である。余談はさておき、今日は朝は大した雨も降らず、朝は少し寒いなあの感じ、雨が足りぬので大根等はまけぬ、稲は早苗は出そろい、中出は花ざかり但し天葉は赤い。何のせいかなかつての西川のせいとして置く、二百八十六號、山崎先生の追悼號の新聞（平新報）郵送がまだ〳〵おわらぬので出平を急ぐ、第三種が失効したので一部郵税八円、なか〳〵こたえる、第三種を持つて居つた折は湯本、今の常磐局にして居つたのだが失効してからは平局から出して居る、この方が都合がよい、但し常磐交通社に支拂う事、年間を通じて大したものだろう。これから次號の取材と外交にかゝる、社長ケン小使だ六十才の小使、狂人と笑うものは笑ひ、馬鹿とのゝしるものはのゝしれ、眞立は己れの信ずる破邪顯正、啓發運動に向つて猛進するのだ、その破邪顯正も近きより、……で、自己より家族字の人、而して世界人類に及ぼしたい、この氣持を世人は知らず、何が故に岩出の如き小さい事を新報に發表するか等との批判をうけるが、これが筆者の主義だ主張抱負であるんである、要は自己のすむ、家庭、大字を明るくしたい、されば御前の住む、郷は暗いかと問われれば然り矣と答えざるを得ない、それは皆々私心邪心があるからだ、個人利己、という相互に譲り合うことを知らぬ、長幼の別を知らぬ、人生土から産れ土に育まれ、土に入る 誰れか百二十五才の説を体驗せしものあろうや、等との人生觀を考いながら今、地方で問題の癌點になつて居る駒忠事件の眞相を確める決意で、大嶺庫辯護士を十五丁目に訪問すべく三丁目のホシ藥局に入る、意外、忠敬さんは上京、玉協組合長の忠三翁が居られた、…で忠三さん曰く、磐城市議会は今日前九時からだと、筆者は後二時からだと聞いて居つたのだが、然し駒木根さんは○○市議から確かに聞いたと主張するので又ミツおんちやん（註、滿藏さんを私の方ではミツゾーと呼ばれており、筆者もその氣持で居る）……の車で小名濱まで通した、時午前九時だ、九時から開会というから、市役所に九時についたのが、いや早や、助役室に、企劃課長の小泉安雄氏に敬意を表す○氏には平新報を一束にして市役所におくり配布方を依頼して居るので禮を『つくさねばならぬ』中田助役と三代市長阿部總務部長と、何かヒソ〳〵協議、だが筆者少し耳が遠くなつたのでハッキリ判らぬ、其處へ長瀬議長が入つて來た…ら少し話をやめた、議長さんは阿部さんに筆者を紹介するのだが阿部さんは筆者を忘れて居る……辰おちやん（鈴木辰三郎）の折、平市役所であつて居るのでしようと何回申しても知らぬという。こりや御年のせいで阿部さんがどうかしてきた、秀さん（前市長立花秀吉）が死んで鈴木寅次郎が老いて…等との考いがワイて來る、長瀬議長盛んに、暑中伺い廣告とか何とかいうが筆者の今日の目的は市議会傍聴に在るので、廣告取りに來たのじやない、それより岩出の問題をとりあげず居るので議長に補助金が市役所に四年間も留つて居つたのはどうか、何人が流用して居つたのか、小野義一氏が仲に入つたと聞いていて居るがどうか、寅さんが策動している筈だが 額は三万七千余円、岩出にして大きいです、これに對して議長は釋明よろしくつとめるが、どうもガラスバリに筆者の納得するべくピンとこない土地の、强盗の即ち地セブり、公道をケズル問題についてどうしたらよいかと質つたら、小泉課長はそれは農政課でなく土木課へ當つて手續きしたらよいだろうと教えて呉れたから大字の方も區長と未だれんらくしないから後日にする事にした、議長さんは中田助役にも三代市長にも紹介してくれないから、とう〳〵市長とも助役とも一言もしゃべらずして了つた。何でも議長はハイヤーが待つて居るから出かけるで等と逃げた様だ、筆者も相手が居らぬではと、市役所を出た。（清水屋を訪問すべく）この頃雨が盛んに降りて來た天道人を殺さず農民には否な森羅万象雨露の恵（メグミ）を感ずるであろうが…トラックのヤツにはシャクにさわる、枡形（マスガタ）迄行く途中で上服にドロ水をかけられた。當り所がない途中朝日の長瀬さんに敬意を表し、清水屋に小野義一氏をたずねたがまだ歸つて居らぬ（氏は上京中）氏でも忠敬さんでもよく上京する、酢屋野崎良行さん宅へ、先づ故野崎一郎氏の靈に合掌、良行氏が外出から歸つて來られた、駒忠事件に話しが咲いたから、午後の会議には緊急動議が出るかな…との予感もした、それから同級会の打合せもあり、比佐政種氏訪問し、比佐氏の對談は事、平新報の經營即ち購讀の件になるから詳記はやめる（以下畧す）エチケットの事だが比佐榮一氏（中略）其處へ行くと志賀與市氏にしろ八巻儀助氏でも、鈴木イセさん、菅原道一氏でも學友として待遇してくれるには心から嬉しい、それが夫人や子供さん達までお父さんの昔友達が來てくれたという感じ、とても拙筆では表現出來ない、人生意氣に感じてや、功名誰れか論せん（諸葛孔明）筆者は涙にもろいが、クソヘビ根情だかも知れぬ、売られた喧嘩は買う、決して當方から売らぬ心算だ、敵は幾萬ありとても正義のために破邪顯正である。

三・代・さ・ん・市・長・に・な・つ・て・初・め・て・の・議・会・傍・聴・と・印・象・

市会議室に入ろうとすると記帳して傍聴券をくれた、何でも百枚位作つたそうだ（第壹號、第十六回磐城市議会定例会、昭和三十一年八月二十七日開会、傍聴券出入の際は係員に御提示願います。議会事務局、磐城市議会の印の大きな角印）いや今回は蜂の如く駒忠事件の緊急動議があるなと又予感が來た、然し傍聴人はあまり多くない、新聞記者二名、野崎藤太、馬目（この人名前は判らぬ、及川さんの兄と思つて居つたが）櫻村清さん、他は知らぬ人でボス連中は入つて居らぬ様だつた。正午後二時開会これは正確なものだ、議員は小野務平、菅原勳、江尻郷、橋本雄吉、全佐多壽、比佐政種、後は知らぬ、長瀬議長、三代市長、中野助役、參與として各支所長、各係長だろう、彼の方に並んで居るのは、議長の開会の挨拶、十一番木田谷平氏が何やら議事進行の件で質す、市長の挨拶新任鈴木勝夫氏、二十二番の席を得た、飯塚勝、東新議員の挨拶、次に何や彼や議案があつたのだろうが、すべて八百丁的、故立花市長の退職金について一寸と活氣がついた、五十萬円の原案が委員会で七十萬円とする事にして委員会案を消したので質疑應答をやらかした、結局原案七十萬円と化した、…で本会議を閉ぢますと議長報告し 緊急動議も出なけりや、あつさりした初会議、三敗地にまみれた志賀要平氏を思うと、三代義勝氏も筆者の忠言を入れてくれたか、あまりうれしい様な顔をして居らなかつた、（故立花氏はあの當時得意滿面の感じ）それもそうだろう、目下志賀派の齋藤司氏から出した選擧無効等の異議申立が出て居り 小名から福島 仙台、と仙台と決らぬうちは安心出來ぬ、天下晴れての市長でないという感じが三代さんにして居るのだろう、小野務平氏も然り、駒忠事件でかかわりないとは斷言出來得ない立場に在る。志賀氏の事務長であつた酢屋の旦那、野崎良行氏は三代市長と同じく終始だまつて考え込んで居る様で、鹿職酷のころを連想して居るのであろう、敗軍の大參謀、吳越同舟ならず、敵味方同志の初会議は傍聴も、いやなものであるという印象、磐城丸の新船頭 三代義勝カジ取り小野務平、駒忠事件の暗礁に乗り上げた事實 これは氷山の一角より尙ほ危い。

磐陽隨想

高知尾誠吉（法号智耀 雅号 白瑞）

久々で山野邊庄吉さんから『平新報』を寄贈せられ拝見しました。先づ何となく懐かしい想ひで披見すると山崎宣吉先生の御寫眞が大きく出て居り、御亡くなりになられた模様、御葬儀等に關する記事が出ています山崎先生が亡くなられたことは、この春四月私が磐城地方を訪問して、初めて承り、且つ驚き且つ悲しんで湯本から平市に出て、諸橋元三郎氏方を御訪ねし相ともに城山の山崎邸を弔問したのであつた。

山崎宣吉先生の平を中心とし、磐城地方に於ける名聲德望はよく知られて居るところで、磐城高等學校（磐城中學時代をこめて）關係の人々は殊によく先生を慕つて居られるのである。

そのお方が今年昭和三十一年二月十一日（もとの紀元節）に亡くなられたことは磐陽の知識層をあげての悲しみであつたと云つてよかろうと思う。私も緣あつて昔て磐中に御世話になり初めから山崎先生とは懇親を願つたもので、磐中に居つた間が八年、その後も機会ある毎に先生には御目にかかり、肝膽相照らした中である。處も離れて居り仕事も別であつたが、舊交依然、なつかしい山崎先生であつた。その御方が今や幽冥境を異にし、今生では親しく御話することも出來ないと云うことは私は悲しい。あゝあの温顔に私は再び接することが出來ないと思うと闇涙を催さざるを得ない。然し又深く考えれば、人生は實に斯の如きものであるのだ今更驚く方が實はおかしいのである。

山崎先生の笑顔と共に同紙には、磐中二八会の諸君の寫眞が出ている。これは恰も山崎先生の敎え子の諸君で、今は磐城地方の中堅的存在として働いて居られる諸君である。これは磐中出身者の一部であるが、こう云う有爲の多數の人々の心の中に山崎先生は活きて居られると思う。

この意味に於て、教育家は幸せであると云へよう。

× × ×

ところで、私は私自身に關連して少しくのべることを許されたいと思う。私も明治の終りの頃から大正三年まで八年間、磐中で英語と修身の先生をしていて多くの方々から色々な點に於て御世話になつたもので、磐陽の地は私にとつては第二の故郷の感があるのである。私は上總の生れにあるが、早稻田大學を卒業してから教育界に入り、磐中で八年を送つたと云うわけである。私の前の家内は平の小學校で教師をして居り私の長男、二男は平で生れた

磐城地方には私の知友が少くない。

そう云うわけで、平は第二の故郷の如くである。

然し私が大正三年秋、平と磐中とに別れたと云うことは、私の信仰生活に關する事柄である。それは私が磐中時代に田中智學先生創立の國柱会に入会し、日蓮聖人の純正教義を信奉する在家佛教本化妙宗に歸依したのであつた。かくて、田中智學先生のもとで純正日蓮主義を研究し、體得し、之を宣揚する爲に、その當時の道場たる三保の松原最勝閣にゆく爲に平の皆さんにお別れしたのであつた。

もとの揚土台にあつた磐中の大講堂で全校の教員學生諸君にお別れした時、私は云つた。

『以上の目的を以て、私は今皆さんと別れております。今後又皆さんと御目にかかることもありましよう。或は又これが最後の御別れになる方もありましよう。私は佛教を信じ、法華經を信じ、本佛を信じます。皆さんが現在でなくとも日蓮聖人のほんとうの教に目覺める時のあることを信じます。その時はいつどこにありましても私と同信同行の心の友として現在將來に亘つて眞にまごころから相語ることが出來るであります。』とのべたことを記憶して居ります。

私はそう云う人間であります。私はそう云う信仰を持つて生きているものであります。どなたでも。眞に國を思ひ、正義を愛し、人類のため、平和の爲めならば、私はいつ、どこでも、如何なる人とも天地法界唯一の一眞理を話し合ひたいと思つているものであります。

私の親友山崎先生を弔するにつけても、私もいつ何時此の世に終りを告げるか知れないと思ひます。私はいつ死んでも決してなげきも怖れもしません。ただ生きている間に一人も多く自分の確信であるところの人生觀、世界觀を語つて、その方の永遠の眞福に寄與したいと念ずるのみであります。

昭和二十二年五月六日平市五丁目釜屋諸橋元三郎氏裏庭にて 前例向つて左より
長瀬米次 岡田朝五郎 關内正一 比佐榮一
後例左より 故松本德一 諸橋元三郎 山崎宣吉 蛭田利光 高知尾誠吉 山野邊久利 小泉義浩 高木裕水 吉田定太郎 江尻功造氏撮影

知人消息

▼佐藤初太郎氏（前平二丁目關内油店々員）は全店退職、自宅の茨城縣東茨城市大津町西町で油商をして居ると

▼鈴木正一氏 前高久村長の氏は過日より病氣共立病院で手術をうけたが目下快方に向ひ平市新川町の自宅で靜養中である

▼鯨岡潔氏 氏も本年三月頃より心臓病のため入山病院で加療中であつて一時は心配されて居つたが快方に向ひ湯本の自宅で靜養して居る

▲高野銛造氏 氏は二ケ月前より具合惡く新川町近くの大町で職場に行かず 但し職場を放棄したのではない靜養して居るらしい

▼伊關房次氏 平市二丁目伊關呉服店主の氏は亡き老妻簡媼の新盆もすまし八月二十一日冬物仕入れや天理教の信徒として京都に向け出發した京都間屋丸信の招待北川呉服店一丁目主も途中で同行する

ラジオ体操

一、時 昭和三十一年八月二十日 午前六時四十分
一、所 磐城市岩出字向二十八番地 山野邊庄吉宅前庭
一、小名濱第三小學校岩出班兒童十八名の第二体操の熱操振り

夏休み初まつて三十日間、一日も降雨なくラジオ体操には惠まれ 病氣欠席は一人もなかつたのは会場主として吾が意を得た 助川寫眞館主撮影

贊援平新報續刊

稅理士 山野邊久利
事務所 平市仲町四 電話一三七三番

主食販売小売業 坂本米店
坂本爲一 平市南町

今日在る所以は 世の指導鞭撻の賜

平市長 諸橋久太郎氏

ロータリー平クラブ会長諸橋久太郎氏は所信と略歴を公表した、略歴左記（所信は紙面の都合上略す）

諸橋久太郎の略歴 福島縣平市五丁目六番地明治二十六年五月三日生

私は素より一介の商人に過ぎませんが、抑々今日在る所以のものは祖先の余慶にあずかる所多しと雖も是れ偏に皆様多年の御指導御鞭撻の賜であると確く信じます。

さて、私が小學校卒業の時、彼の明治三十九年の大火の厄に遭い、一家臥薪嘗膽克く苦難に耐え奉公人同様店務と勉學とを續け四十四年の春、磐城中學を卒業して家事に從事すること三年有半、毎月十五円づつの學資金を稼ぎまして漸く早稲田大學において政治經濟學を專修したのであります。その間叔父定太郎の懇請によって㊇釜屋商店の總支配人として活躍先代久太郎の存命中は日夜の別なく奮闘努力いたしました。

他方また社会公的面におきましてはその主なるものとして大正十一年飲消防團の第二部長、町農会長郡農会長を經て縣農会議員第一回國勢調査委員、平稅務署所轄內土地賃貸價格調査委員、磐城水産工業株式会社片倉磐城製糸株式会社各取締役等に就任、父の歿後は諸橋合名会社を創立して、その代表社員となり、次いで石城中堅農民養成会長、平信用組合理事長　平裁判所の人事金錢債務等の調停委員並にその懇和会長、福島縣農工銀行取締役を三期昭和十四年の秋貴族院議員に當選、さきに個人として大正十二年朝鮮、滿洲、を視察せしも今回は議員として北は千島列島より南は台灣を初め內南洋諸島を、更にマニラ政府に對しては國会を代表し親善友好の使節團員として特に派遣せられ比律賓、ボルネオ、ミンダナオ、セレベス等の外南洋までも詳細に視察いたし、南洋は正に地上の樂園、この世ながらの天國たるを認識したのであります。

大東亜戰時中は食糧問題の重要性に鑑みまして農村青年の技術向上のため、昭和十八年福島縣立磐城農學校を創設致しましたのみならず一面又內地の陸海空の病院をはじめ遠く南北支那の皇軍慰問使として砲煙けぶる戰場にまで玄海灘の荒波を蹴り、或は潜航艇の危險に暴され全く命がけの貴重の体驗でありました。

貴族院には二十三年の五月三日新憲法實施の日まで足かけ十年の間在職致しましたが、已に大戰爭勃發の年議員としての功勞によりまして從七位勳四等の榮譽を荷いました。

酩酒 勇冠

岩ヶ岡若松屋醸造

常磐市岩ヶ岡御代酒造店主御代武光氏は平市五丁目諸橋合名会社諸橋元三郎氏の名付で酩酒勇冠として愛酒家ののどをうるおしている

早く良く………
… ……勉强親切

株式会社
大和田印刷所
平市仲町電 七二九番

駒忠事件はどうなる 眞相を剖見し市民に諮る

山野邊眞立

〔一億円の損害請求、常磐化成、横領と營業妨害　八月二十二日の新聞はにぎわった。告訴人は常磐化成の駒木根忠敬氏、相手は磐城市長職務代行助役中田佑一郎、同市議長長瀬彰義氏で八月二十日磐城署に告訴、磐城署は取調べが進んで居るであろうがその後の新聞の報道は判らない、右は刑事問題として居るが、別に民訴の用意もあるとして忠敬氏は話して居るようだが、これはやるまい、なぜなら印紙代がなみ大底でない、これは先に市に請求したが市で應じないので刑事として以つて行つた。

㊇七月二十七日常磐炭礦に□□□□□売り渡した、その日のうちに土地の移轉登記をすませて了つた、ことから問題が表面化した、此處が問題なので一体何人が常磐炭礦に渡りをつけたのか、その額は□□□□、その金は誰の手に入つたのか、中田助役、長瀬議長、草野惠正三人の手に入つたのだろう、又市長選はいつから初つて居るか、巷間種々な噂をなして居る、四百七十万のうち□□万は□□運動費に、後の殘はどこへ行つた㊇問題なのは約手だ、割れない／＼として……だが日限は八月三十一日であり、忠敬氏が三十一日迄こしらえるか、出してやる人があつたらどうする、これがあつたら、割れたら忠敬氏の勝ちだと消息通は見ている

四百七十五万九千五百円、一寸大きな數字、常磐交通でもこたえる數字だ、が吾が二八会友大越新を社長とする常磐炭礦は大きい、今更筆者は驚いた理だ、畑六畝七歩、全八反弐畝十九歩計二千七百〇六坪、坪當り何らになる。

磐城市字高山壹番の八拾壹
一、畑六畝拾七歩（公簿面積）
同字壹番の八拾弐
一、畑八反弐畝拾九歩（公簿面積）

右土地の內別紙圖面に示す草野惠正氏所有の土地實測參千百七拾參坪

今般右草野氏から貴会社が買受けられたについては登記簿上の所有名儀である當市から貴会社に直接移轉登記をすることを承諾致しました。

（但し貴社より草野氏へ渡した約束手形決済後とする）尚右地內域內は國有地がありますが此部分については當市が責任を以て拂下げを受け、無償で貴組合に所有權移轉の登記を致すことを附記しておきます。

昭和三十一年六月二十八日
磐城市長職務代理助役 中田佑一郎 ㊞
常磐化成株式会社殿

右は念書である、尚売渡證を記してみる。面積は念書と同じだから略す、

右土地の內別紙圖面に示す拙者所有の土地實測參千弐百七拾參坪を代金四百七拾万九千百圓也を以て今般貴社に売渡したこと間違いありません。

右代金は本日貴社振出の約束手形を受領して決済致しました。

右土地の登記簿上の所有名儀人は磐城市となつておりますから貴会社が同市から直接移轉登記を受けれるよう願います。

但し移轉登記は本約束手形決済後とする。

昭和三十一年六月二十八日
住所福島縣磐城市字定西一九六番地
氏名 草野惠正 印
常磐化成株式会社代表取締役駒木根忠敬殿

こういう理で約手が割れるかどうかの問題だ、以下紙面の都合上次號
（八月二十九日記）

反響 音信交換

謹啓 平新報難有拜見致しました 亡弟に就いては一方ならぬ御同情を賜わり感謝に堪へません。遺族並に親族の者共に申すに不及宣吉も地中に感謝致して居る事でしょう。不取敢御禮迄申上げます。 敬具

內郷市綴町板宮一二三 山崎康太郎

八月十七日

× × ×

平市高月 磐城高等學校長 橋本憲司

八月二十三日

謹啓 本日は貴紙『平新報』を御送附賜わり有難く厚く御禮申し上げます(註)職員各位にも御芳志の趣御傳い致しました。故山崎宣吉先生の追悼の御記事よく／＼拜讀させていただきました。先輩各位の御こころづくし改めて厚く御禮申し上げます。

尚、八月十日の同窓会には御來校いただきましたところ盛岡市に出張中で失禮申し上げました。 敬具

× × ×

大阪市西成區天下茶屋一丁目二十二 味岡 實

拜啓 益々御健勝の段御喜び申ます。さて此度は平新報御恵送被下興味深く有り難く拜讀致しました。御芳志の程厚く御禮申し上げます。小生早や高齢に達し余生一、二月を期して靜かに暮らして居ります。右御禮迄

八月二十四日 匆々頓首

× × ×

大阪府泉南郡樽井町二〇四五 安藤なつ

殘暑御見舞申上ます。平素の御無沙汰を致し皆々樣の御多幸を祈ります。又毎度新聞の御送附深く御禮申上ます。

昭和三十一年盛夏

× × ×

東京都目黒區平町一五二 齋藤辰雄方 山野邊春子

行秋とは名ばかりの殘暑きびしき打柄その後御家內皆樣には御變りもあらせられず益々御すこやかにお過しの事かと御察し申し上げます。さて此度は度々新聞御送附下さいまして有がとう存じました。御陰樣にて郷土の樣子を知りうれしく存じます。お盆も間近に迫りましてなんとなく御多忙の事と遥察致します。 以下略

× × ×

合掌 平素は御疎音奉謝候『平新報』八月十五日號御送り下され難有拜見仕候。就ては誌料中へとして金二百円也同封致候間今後新報御送り下されば難有奉存候尚御差支なくば今後該誌上へ少々づつ寄稿致度と存じ候が御都合如何に候や、原稿の分量及締切等御一報御願致し候。『平』は小生により第二故郷の感有之、小生晩年所懷の一端を御地の方々に發表する事一種の心ゆかせに有之御勘考の上何分の御返詞奉待候。 余は又々早々

昭和三十一年八月十五日 高知尾誠吉

× × ×

平市城山 篠山 灘

八月十四日

拜復 久しくお目にかゝりませんでした。相かわらず御元氣かと存じましたら最近神經痛とやらでおなやみとの事精々御自愛下さるよう祈ります。

御郵送の平新報昨夜拜見致しました。相かわらず御元氣の議論にて敬服、破邪顯正、啓發運動は徹頭、徹尾熱讃致しました。何處にもボスの存在には地方民をなやませられるのには困りますね。次に先般平で催された会合は教え子の会合でなく元在職中の私の部下として居つた同僚の連中でなか／＼面白い会合でした。若かりし當時の思い出話に時の移るのも忘れて長時間を過しました。尚お大原の出身渡邊順氏(平市杉平一三三)私の近處に健在ですが本年春頃、腦溢血(中症)にかゝり一時心配されましたが大分健康元に復し、今朝も御信の趣傳えました處是非出來席したいからよろしく願うとの事でした。

鹿島出身、鈴木廣記（現姓近藤氏）も城山丹後澤附近に居りますがこの方は磐女で國語の先生をして居つた人、この人も同じ級ではなかつたでしょうか。

藤田榮助、山野邊義政氏等逝き平もさびしくなりました。

× × ×

平市五丁目 諸橋元三郎(心石)

拜復・御依頼の件に付猪狩氏に照会致候處當分見合すとの事に付此の件御放念被下度尚、岩出訪問は關內氏のからだの關係上所詮不可能に候間御了承被下度。先づは御返事申上度如此御座候年末筆御家中皆々樣によろしく御傳言被下度願上候。

八月二十八日 匆々

福島縣平局私書函第九號 三猿文庫

× × ×

平市谷川瀬 鈴木茂作

拜復 此度は御親切にも平新報贈與被下誠に難有御禮申上ます。益々御元氣にて御發展の慶賀至極です。級友山崎君之記事を見まして舊事を想出します。葬儀當日は小生も御悔に參りました。關內氏には近頃面会しませんでした。其內訪ます。先づは右御禮まで。暑中御伺い (日本生命)

× × ×

館山市新井一三四八

二十七日 齋藤昌秀

暫らくです。御無沙汰致して居ります。御元氣で奮斗の由何よりの事と御喜び申し上げます。本日は平新報を御送り下さいまして眞に有り難うございました㊇郷里の事共をなつかしく拜見致しました。初めて知つた山崎先生のなくなられ事もこうしたくわしい郷里の事共をうかがつて居りますと全く郷愁をおぼえます。私も何かと郷里に働らく機会を得たいものと存じます。何分よろしく先づは御禮まで。 草々

× × ×

東京都中野區上高田二の三八二 佐川玲子

前略御免下さい。色々と御馳走になり、その上昨日は澤山のお土産を頂戴し本當に有難う御座居ました。無事三時半歸宅致しましたから御安心下さい。私にとつて又とない樂しい休みのひとときでした。處で父の病氣ですが元氣な姿で会える事を期待していました處、生憎とこゝ一、二日天候の變化のために氣分がすぐれず床に臥していました。二、三日前までは連日の猛暑にまけず大變元氣だつたそうですが……今日も朝から愛かぬ顔付きで起きていましたが又床に臥してしまい話もしませんで天候の變化が一番体にはこたえるようです。では母がくれ／＼もよろしくと申しておりました。皆々様御身体を大切に、まづは御禮まで。 かしこ

一九五六、八、一一

× × ×

東京都新宿區西落合二丁目四九五 菊池サイ子

先日は恭子がいろ／＼と御世話になり又歸りの節は旅費、おみやげお金又すきぐしまで買つていただき其れに兄さんには忙しい所・湯本まで荷物を持ち送つていただき何んと御禮の申上げようもございません。それから兄上樣には新聞をお送り下さいましてほんとうに有難うございました。すぐに禮狀上げるべきなのですが、おそくなつてほんとうに申しわけありません悪しからずおゆるし下さい恭子は田舍に行つて、あつちゃん、光ちやんに会えた事をとても喜んで私に話して下さいました◇私も陰乍ら喜んで居りました。大夫暑さも、日中はともかく、朝晩はしのぎよくなりましたが、田舍の方はどうですか、今年は稲はどうですか東京に居ると田舍のようすがわからなくなりますね。共の内にいそがしい秋の取人が來ますね。では皆樣お体に氣をつけて働いて下さい。

兄、姉上樣

賛援 平新報續刊

常磐市湯本 若松修一
平消防署長 井上貞治郎 平市五丁目
エビスヤ自轉車店 鈴木瑯太郎 平市六丁目
志賀齒科醫院 志賀與一 平市五丁目
酒類販売 大竹芳之介 平市五丁目
マルトモ書店 柴田德二 平市八幡小路
佐藤登美 平市新田町
平消防組々頭 岡田政次郎 平市大町五ノ四
佐藤鐵工所 佐藤源吉 平市月見町
平市四丁目 野內商店 野內辰雄
きさごや 猪狩四郎 平市中央通
平市議会議員 坂本昌藏 平市一丁目
蘇社商店 パン 高木忠治 磐城市小名濱
味噌醬油 志賀要平 小名濱古港
酢屋 野崎貞行 小名濱古港
銘酒(由良之助) 永山勇吉 平市久保町
平商工会々頭 山崎賢助 平市三丁目 かみや呉服店
平市二町目 食堂 魚清 鈴木清
元通譯官 大嶺秀吉 平市長橋町

白鳥鑛泉 喜樂屋 電二二七